

- ・留学期間：4 年次 春学期・秋学期
- ・所属学科：総合社会学科

## 夢の韓国留学にむけて

私は中学生の頃から色々な国の音楽を聴く事や、映画を見るのが好きで、高校生の頃に K-POP や韓国に興味を持ちました。そこから字幕や日本語訳で韓国文化に触れていましたが、字幕や日本語訳に頼らず自分の耳で韓国の作品を楽しみたいと思い、韓国語を勉強するようになりました。日本で韓国語の勉強をしながら韓国の文化に触れているうちに、韓国と日本とは似ているけど違う点がたくさんあるということに気がきました。そこで実際に韓国に行って韓国の文化を体験したいと考え高校生の頃から韓国に留学をするのが夢でした。

京都文教大学に入学してからは大学に交換留学に来た韓国人と友達になり韓国について色々教えてもらいながら、交換留学にむけて準備をしていました。ついに留学が出来る 2 回生になり楽しみにしていたのですが、新型コロナウイルスのため交換留学が中止になりました。2 年間も交換留学が中止になると韓国語への勉強意欲がなくなり覚えていた単語や文法もほぼ忘れていきました。留学が出来ないまま 4 回生になり、まだ留学が出来るか分からない状況だったので、留学を諦めて就職活動をするべきか悩んでいました。しかし韓国にいる友達やゼミの先生から、せっかく準備をしたのだから絶対に諦めるなど背中を押してもらい韓国に行きました。

## 心折れそうになるもくじけず、先生の言葉を励みに

大学の授業が始まったのは 3 月 1 日からでしたが、コロナウイルスの対応の影響で韓国への入国が遅くなり、渡航する前から日本でオンライン授業に参加していました。春学期に履修していた授業は『祭り企画』『イベント企画実習』『韓国語・書く』『韓国語・聞く』でした。他の授業も希望はしていたのですがオンライン対応はしていないため、もなく辞退しました。

『祭り企画』と『イベント企画実習』の授業ではグループワークで進行していたのですが、チーム分けは韓国人 4 人、中国人 5 人、日本人 1 人でした。その時オンラインで授業を受けていたのは日本人だけだったので、会話に参加をしても無視をされ韓国人の学生だけでグループワークが進められとても悲しかったです。韓国に行く前から心が折れかけていましたが、『韓国語・書く』の授業で担当の先生に「韓国語が出来なくてごめんなさい」と言ったときに先生が「あなたは十分できている、はやくあなたに直接会いたいわ」と言ってくださり、そのときの言葉を励みに韓国語の勉強をしました。

韓国に入国してからもグループワークの授業では留学生は韓国語ができないイメージがあるため話しかけ

でも無視という学生が多くて「ここで負けてはいけない」と思い、言葉はできなくてもやる気だけはあるという姿を見せていくと、だんだん理解してもらえようになり最後には一緒に企画をしました。もう1つのグループワークでも理解してもらおうのが難しかったのですが、同じグループだった中国人の留学生が声をかけてくれて簡単な韓国語でワークの内容の説明をしてもらい、一緒に授業を乗り越えました。

## 「語学堂」で韓国語能力をみがく

過去に湖西大学校へ留学した先輩から語学堂に行くのは時間がもったいないと言われて語学堂を受けない予定でしたが、韓国に行ってから韓国人の友達とコミュニケーションが取れないのが悔しくて語学堂に週2回通うようにしました。私が通っていたクラスには中国人、アメリカ人、フィリピン人の学生と一緒に学んでいました。私だけ遅く通い始めたのですがみんな暖かく迎えてくれてとても嬉しかったです。私は韓国だけではなく色々な国の文化に興味があったので、韓国人じゃない外国人の友達と韓国語でお互いの文化について紹介しあえたので私がしたかった異文化交流ができたので語学堂に通ってよかったと思いました。語学堂の先生も親身に私の悩みを聞いてくださったり、韓国語も丁寧に教えてくださったので一気に韓国語能力が伸び、最後のテストではクラスで1番の順位を取りました。今考えると韓国以外の外国人の友達と韓国語でコミュニケーションを取ることはなかなか難しいことで、貴重な経験でした。

## コンビニのおばさんとの出会い

私にとって韓国は初めての海外だったので、生活のすべてがびっくりすることや不思議なことがいっぱい初めは楽しかったのですが、だんだん周りと比べて自分の韓国語のできなさに落ち込んでいき、会話をするのも嫌になり、人と関わりたくないと思うようになっていきました。でも念願の韓国留学なのにただ落ち込んでいるのは時間がもったいないと思い、韓国人の友達や先生がよく使う文法や口癖を見つけてそれをメモして、授業の後にその文法を調べて勉強をしていきました。やはり勉強を続けることでだんだんと友達や教授の話す韓国語が聞き取れるようになり、改めて語学勉強の楽しさを知りました。

初めは自信がなくて友達と話すのも苦手でしたが、私よりも嫌だったことは先生や事務の方など年上の人と話をすることで、そうした場面ではすぐに逃げていました。しかし私が一人でコンビニに行ったときに店員のおばさんに「もしかして日本人？」と声をかけてもらい会話をしているうちに、だんだん自信を持って話すことができるようになりました。おばさんと話をしたくてほぼ毎日コンビニに行って仲良くなっていくうちにご飯やお菓子まで貰うようになりました。おばさんに「日本人の友達が出来て嬉しい」と言ってもらいその言葉がすごく嬉しくて、その後は自信を持って年上の人や銀行、郵便局の人とも積極的に会話ができるようになりました。

## 寮生活での苦労

学生寮では私は韓国人と 2 人部屋で過ごしました。ルームメイトは「外国人の友達を作りたかったから申請した」と言ってくれて、初めは嬉しくて一緒に食堂でご飯を食べたりルームメイトの友達を紹介してもらっていました。しかし段々ルームメイトが夜中に友達と電話をしたり、私が寝ているのに夜中に物音を立てながら部屋に戻ってくる事が多く、睡眠不足とストレスがひどくなり、ルームメイトにはルールを守ってほしい、電話をやめてほしいと言いましたが、理解してくれようとしなくて何回注意しても直らずストレスがひどく、違う文化の人と暮らすのは簡単なことではないと思いました。部屋に帰りにくい時は仲良くしていた韓国人の友達と一緒に夜中まで図書館で勉強に付き合ってくれたり、日本人の友達の部屋に泊まったり沢山の友達に助けられました。

## 日本語教室のお手伝い

課外活動では日本語サークルに参加をしていました。日本留学に興味のある人が集まってお互いの文化を説明したり、ご飯を食べに行ったり短い期間でしたが 10 人ぐらいの人と交流をしました。

また 6 月から 12 月まで、夕方に行われている日本語教室のお手伝いもしていました。対象の学生は日本に就職をしたいゲーム学科の学生さんで、初級の日本語からビジネス日本語まで教えていました。私は京都文教大学で 1 回生の頃から日本語教育のボランティアに参加し、また 3 回生の時には日本語教育の実習に行っていたので、湖西大学校での日本語教室のお手伝いをできたことがとても嬉しかったです。3 回生のときの日本語教育実習は新型コロナウイルスのため国内実習だったので、韓国で学生に日本語を教えることができ、そしてお互いの国の言語を学んでいるので情報を共有することもできて嬉しかったです。

## 今後改善されたいなと思う点

湖西大学校には語学堂という語学学校があるので、交換留学だけではなく語学留学もできる制度があってもいいなと思いました。また、湖西大学校には 8 学部 55 学科があります。私たちは文化映像学部・文化コンテンツ企画学科の授業のみ履修が可能ですが、他の学科の授業を履修できたらいいなと思いました。（実際に建築学科の授業を履修したいとお話したのですが断られました）

## これからの目標に向けて

この交換留学ではいろいろなことが経験できました。ネットの情報だけの韓国しか知りませんでしたが、実

際に現地に行かなければ分からない事がたくさんありました。交換留学をする前は引っ込み思案で何を始めてもすぐに諦めてしまうことが多かったのですが、留学を通して初めは会話もできずコミュニケーションが取れなかったけど勉強を続けた結果、自信を持って行動したり人と関わるができるようになったのが自分にとっては一番の成長だと思います。また、韓国に留学して思ったことは日本と韓国は近い国ですが文化が違うのでそれを理解するのが難しく辛かったり、少し心寂しい事もありましたが、自分が学びたいことを日本人、韓国人、中国人の友達にたくさん支えてもらいながらできたので、私の韓国留学は充実していたなと思います。また1年間も韓国留学をしていたので韓国能力試験（TOPIK）の上級だけではなくハングル検定などの資格も前向きに受けたいと思っています。